

■平成 24 年度 第 2 回長浜城歴史博物館協議会 会議録■

日時：平成 25 年 3 月 1 日（金）13：30～

会場：長浜城歴史博物館 地階研修室

【出席者】

委員：東、衣斐、大橋、小和田、北川、木村、草野、嶋田、西川（五十音順・敬称略）

長浜城：片山館長、太田、森岡、北村、南部、西原、福井

（司会：佐々木）

それでは定刻になりましたので、ただいまから平成 24 年度 第 2 回長浜城歴史博物館協議会を開会します。皆様方にはご多用のところをご参集賜り、厚くお礼申し上げます。

長浜城歴史博物館 館長の片山から挨拶申し上げます。

【館長挨拶】

（片山館長）

館長に就任し、ようやく 1 年が経とうとしている。振り返ってみると、特に「湖北の観音」展では、信仰の対象となる仏像をお迎えするという事で、色んな面で心配もあった。友の会の皆さんをはじめとする陰の力で成功裏に終わりましたことを感謝したい。また、観音の里・湖北を全国にアピールできる展示会であった。市の方針としても、さらに観音文化に力を入れていくことになっている。

市町合併により、仕事内容とも多岐にわたるようになった。その効果のひとつと言えるだろうが、新年度から浅井資料館、高月資料館に臨時職員の学芸員を置くこととなった。両館とも地域の資料館として盛り上げていってほしい。

長浜城は、4 月 5 日に 30 周年という節目を迎える。委員の皆様には今後ご協力いただきながら、次なる 30 周年を目指していきたい。

学校現場に居た者として、子どもの利用が少ないと感じている。過去に学び、未来に活かすことは、子どもたちにとっても大切であることから、新年度からは教育普及プログラムを充実させていきたい。

【議長選出】

（司会）

ただいまから議案審議に移ります。議長の選出は、長浜城歴史博物館条例第 10 条の 2「会長は、会務を総括し会議の議長となる」の規定に基づき、大橋会長にお願いしたい。

（議長：大橋）

本日はご参集いただき、ありがとうございます。観音文化振興事業に予算がついたということだが、さらに盛り上がって欲しい。それでは、平成 24 年度事業について、まずは展示関係の説明をお願いします。

1) 展示見学・説明について

西原：特別陳列「湖北の王たち② 坂田郡」（2階展示室）の展示説明

福井：企画展「長浜ゆかりのひな人形展」（3階展示室）の展示説明

【委員講評】

（木村委員）

今回も素晴らしい展示会を鑑賞させていただいた。日頃の資料収集や研究がいきわたっている成果であり、その成果を上手く活用され展示会を開催している。今後もさらに地域へ光を当て、多くの方々に湖北・長浜の歴史を知っていただきたいと感じた。

「湖北の王たち」の展示会で、イラストパネルを効果的に使っているが、もう少しパネルを大きくしてもいいのではないかと。さらに良い補助ツールとなると思う。

（小和田委員）

確かにイラストは非常に見応えのあるものであった。子どもたちにとって、このようなイラストが展示されていることで、さらに想像が広がると思う。

地域の遺跡名や古墳名は、市外の来館者にとっては分かりにくい。目につきやすいところに位置図を表示することで、さらに興味が持てるのではないかと。

（東委員）

「なぜ古墳が造られたのか」ということに着目した点が良かったと思う。また、地域の人々が、いかに文化財を大切に保管してこられたのかということを改めて実感した。

「長浜ゆかりのひな人形展」では、雛人形の並べ方をイラストで表示されており、子どもたちにも分かりやすい工夫がされていると感じた。

（大橋委員）

両展示会とも、地域の皆さんに、地元の歴史を再認識してもらえる内容であった。

何度観覧しても、また新たな発見がある。

（北川委員）

子どもたちはもちろんだが、教師自身が博物館に足を運んでいない。教科を問わず、教師も地域の資料を見る機会を作ることが大切だと痛感した。

2) 平成24年度事業および平成25年度事業計画について（博物館事業・友の会事業）

（大橋委員）

続いて、平成24年度および平成25年度の博物館事業について、実績と計画の説明をお願いしたい。

（南部）

資料に基づき報告、説明

（東委員）

自由研究コンクールのテーマが「長浜の人物」ということだが、子どもたちは、どのような人物を取り上げていたのか。

（福井）

応募数31点のうち、最も多かった人物が豊臣秀吉、次いで石田三成であった。他に、元三大師や雨森芳洲など、自分が住んでいる地域の人物を取り上げた子も居た。

（西川委員）

フローティングスクールでの利用はあるか。

（館長）

主に南部の学校利用が多い。

（木村委員）

次回のひな人形展は、少し切り口を変えた展示方法を取り入れてはどうか。

例えば、人形（ひとがた）から流し雛というような、雛人形の変遷が分かるような内容など。

（小和田委員）

平成25年度は、長浜城再興30周年ということで特別企画展を計画しているが、11月で終了してしまうのは勿体ない。来年1月にはNHK大河ドラマ「軍師 官兵衛」が始まり、再び戦国時代にスポットが当たる。官兵衛と共に秀吉人気も高まると考えられるが、そのような時期に、長浜城で秀吉関連の展示がないのは淋しく感じる。

（太田）

2階展示室には、秀吉関連の展示スペースも設ける予定である。1月に予定している「長浜城に初詣」の中でも、秀吉関係の史料を展示することはできる。

（木村委員）

彦根では「ひこにゃん」人気で多くの観光客が訪れている。長浜では、ゆるキャラに代わるものとして秀吉に焦点を合わせ、「長浜＝秀吉」と誰もがイメージできるような工夫をお願いしたい。

(大橋委員)

続いて、平成 24 年度および平成 25 年度の友の会事業について、実績と計画の説明をお願いしたい。

(福井)

資料に基づき報告、説明

(大橋委員)

会員数の推移はどのようなものか。会員向けに発行している「友の会だより」だが、市内の小中学校にも発送することで、子どもたちに親しんでもらえるのではないか。

(福井)

大河ドラマ関連の事業を行っていた平成 23 年度に比べると、会員数は減少傾向にある。

(片山)

「友の会だより」は大人向けに作られているので、子どもには内容が難しい。新しい取り組みとして、子どもたちが気軽に長浜城に来ることができるように、子ども向けの案内チラシを作成し、3カ月に1回程のペースで各学校に配布していきたいと考えている。生徒数の規模に応じて配布。

(小和田委員)

学校には、共有スペースに掲示板があるので、ポスター的なものにしても効果的である。

(嶋田委員)

学研から、望遠鏡などの国友一貫齋関係の資料を、子どもたちの天体観測などに活用してはどうかとの意見があった。また、一貫齋の人生を DVD 化してはどうか。

(太田)

博物館資料を体験学習に使うのはちょっと無理があると思う。一貫齋については、平成 15 年度に特別展を開催し、結構浸透してきているのではないかと。また、最近では、京都新聞に山本兼一氏の小説が連載されている。これまで、山本氏の原作は映画化されている事が多いので、一貫齋の物語もやがて映像化される気運が生まれるのではないかと。

(大橋委員)

長浜市・米原市の小中学生は、入館料無料となっているが、この地域に限定しているのはなぜか。

(太田)

長浜城歴史博物館のコンセプトは「湖北の歴史・文化」であり、展示資料もこの部分を意識して取り扱っている。そういった面から長浜、米原の子どもたちを対象とした。

(大橋委員)

今後の博物館活動への意見、提言等があったらお願いしたい。

(木村委員)

合併をした各地域にも様々な資料があると思う。これらの資料を、今後どのように保存し、どう活用していくのが大きな課題となる。資料を整理し目録を作成するという、裏方的な役割が必要となるが、市民の生活に直結することではないため、なかなか理解してもらえないのが実情であろう。

日頃から、人々の営みによって文化が生まれ、やがて歴史となっていくことの重要性を訴えていかなければならない。小学校の空き教室を収蔵庫に再活用しているところも多いが、収蔵している資料はホコリをかぶっている状態。きめ細やかな管理体制をお願いしたい。

(小和田委員)

自由研究コンクールの応募数が少ないように思う。歴史好きの子どもたちを確保できるような PR 方法を考えていただきたい。例えば、日本城郭協会が主催している「城の自由研究コンテスト」があるが、全国から 100 点以上の応募があり、とてもいい作品が出ている。子ども心をくすぐるような工夫をし、しょっちゅう長浜城へ遊びに来るような子どもに育ててもらいたい。

(片山)

現在、市内には 41 校の小中学校がある。この自由研究コンクールは今回で 2 回目の開催なので、まだ浸透していない面がある。学校によっては、地域の歴史学習に力を入れて取り組んでいるところもあり、そういった学校からの応募が多いように感じる。

(小和田委員)

新聞社とタイアップすることも一つの方法ではないか。先ほどの「城の自由研究コンテスト」は、朝日学生新聞社や公文教育研究会とタイアップしている。

(大橋会長)

これもちまして、平成 24 年度第 2 回博物館協議会の全ての議事を終了する。委員の皆様には、慎重に審議いただき、提案事項いずれも議案どおり決議いただいた。誠に有り難うございました。

(司会)

大橋会長、有り難うございました。委員の皆さん、長時間のご審議ありがとうございました。

◆購入予定資料の内覧

○羽柴秀吉判物 羽柴秀長宛 1 幅